

## 第10回鉄道騒音国際ワークショップ (IWRN10)

第10回鉄道騒音国際ワークショップ (IWRN10, 10th International Workshop on Railway Noise) が、平成22年10月18日(月)～22日(金)に、琵琶湖畔の長浜で開催されます。

IWRNは、鉄道騒音の現象解明と低減対策の進展を図るために、ヨーロッパの鉄道騒音の研究者・技術者を中心に、第1回が1976年にイギリスで開催されました。第2回から第9回までの開催地と開催年、参加人数を表1に示します。当初、比較的小規模な国際ワークショップとして行われてきましたが、第5回以降、鉄道の環境問題に対する世界的な関心の高まりの中で、回を追うたびに、その規模を拡大し、議論されるテーマも、車輪/レール騒音のみならず、構造物音、空力音、トンネル微気圧波、地盤振動、さらには環境基準にも及び、鉄道の環境問題全般を議論する唯一の国際ワークショップとなっています。日本は第5回から参加しています。第9回はミュンヘンで開催され、参加者は、フランス国鉄、ドイツ鉄道、JR東日本、JR東海などの鉄道会社、韓国鉄道技術研究院(KRRI)、TNO応用科学研究機構(オランダ)、鉄道総研などの研究所、Southampton大学(イギリス)、Chalmers工科大学(スウェーデン)、上海交通大学(中国)などの大学、コンサルタント会社、メーカーなど多岐にわたり、日本、韓国、中国、香港、オーストラリアなどアジアからも多数の研究者が参加しました。第9回の国際委員会は、第10回をアジアで開催することを決定しました。そして、日本、中国(上海、香港)、オー

ストラリアが立候補し、国際委員の投票により、第10回がアジアではじめて日本で開催されることになりました。また、国土交通省、環境省、各種学会の協賛を得ることができました。

IWRN10の開催に向けて、論文を募集し、車輪/レール騒音、構造物音、空力音、トンネル微気圧波、地盤振動、環境基準など、多岐にわたる分野の論文が約80件選択されました。IWRN10では、オーラルセッションとポスターセッションに分けて、発表と質疑応答が行われます。セッションと行事の概要を表2に示します。また、並行して行われる技術展示では、音響計測関連会社による最新の計測技術の紹介、防音・防振材料関連会社による防音・防振材料の紹介など、約10社の企業が展示ブースを設けます。最終日22日の午後には、米原にある鉄道総研の大型低騒音風洞へのテクニカルツアーが行われます。大型低騒音風洞は、空力騒音の現象解明と低減対策の研究に不可欠な実験装置であり、多くの方のツアー参加が期待されます。

IWRNは、鉄道の環境問題に対する世界の研究者、技術者が一堂に会する唯一のワークショップであり、セッションを通して、あるいは、コーヒープレイクなどの会話を通して、世界の環境問題の現状と今後の方向について知るまたとない機会を提供するものと考えます。鉄道の環境問題に携わっておられる皆様の積極的な参加を期待しています。詳細は、IWRN10事務局にお問い合わせください(<http://www.rtri.or.jp/IWRN10>)。

(研究開発推進室 主管研究員 前田達夫)

表1 鉄道騒音国際ワークショップ

回	年	開催地	人数
第1回	1976	Derby(イギリス)	35
第2回	1978	Lyon(フランス)	60
第3回	1981	Monument(アメリカ)	50
第4回	1985	Noordwijkerhout(オランダ)	60
第5回	1995	Voss(ノルウェー)	70
第6回	1998	Île des Embiez(フランス)	103
第7回	2001	Portland(アメリカ)	96
第8回	2004	Buxton(イギリス)	120
第9回	2007	Munich(ドイツ)	120

表2 第10回鉄道騒音国際ワークショップの概要

月日	セッションおよび行事
10.18	受付, 歓迎レセプション
10.19	展望, 法的規制, 知覚 車輪/レール騒音
10.20	構造物音, きしみ音 地盤振動
10.21	高速鉄道(空力音, トンネル微気圧波など), 車内騒音, 防音壁 ガラディナー
10.22	予測ツール, 計測技術, モニタリング テクニカルツアー(鉄道総研大型低騒音風洞)